

淀川キリスト教病院

血液内科

指導担当医（役職）

垣内 誠司（血液内科部長）

実習概要

実習コース

4週間コース

概要

血液学的異常は血液検査で頻繁に遭遇する全身性病態です。血球数異常や不明熱の精査において、他科が専門とする疾患にいたるまで鑑別をする診断学に精通する必要があります。とくに化学療法施行の際は、血球減少下における感染症、臓器障害や電解質異常と広範におよぶ総合内科的視点が要求されます。また、日進月歩に進歩する新規薬剤の使い分けや薬学的特徴に留意した治療の遂行はもちろん、ステロイド免疫抑制療法など免疫学的治療も要求されます。

各病態を理解したうえで適切な鑑別を行い、安心安全に治療を行うための知識習得を目標とします。さらには他職種とのチーム医療の実践に向けて協調性を育て、全人医療の心で患者に接し、専門的病態を適切に伝える話し方を会得することも目標とします。

実習スケジュール

木曜14：30～入院・外来カンファレンス、第3金曜17：00～移植ミーティング

毎日朝夕に集合のうえ回診を行います。

学生へのメッセージ

当院で研修を希望される皆様にとって、血液内科に馴染みがある方は少ないのではないのでしょうか？ もっと端的に言えば、「ハードルが高い」「よくわからない」「マニアック」な診療科に思われることが多いと思います。

当科では、そのイメージを払拭し、今後役に立つ実践的な研修を提供できる診療科であると自負しています。いくつか当科ならではの魅力をお伝えします。

血液検査の結果を深く解釈できるようになる

どの診療科を専攻するにあたって避けられない血液検査ですが、時としてその解釈が難しい場合も少なくありません。血液検査を深く・正確に解釈する力は、診断の大きな武器になります。血球数減少、増多はどの診療科でも遭遇する問題です。血液の成り立ちや、疾患が理解できるようになれば、自信を持って鑑別診断でき、ひいては診療の質をあげることに繋がります。「血液検査判読のコツ」はすべて早期にスライドを基に講義しています。

内科全般の総合力を鍛えることができる

抗がん剤は肝腎で代謝されこれらの臓器機能と切り離せません。抗がん剤にもなう有害事象としての電解質異常の補正や内分泌学的鑑別も日常的に行われます。また、神経障害・意識障害などの脳神経学的異常、がん性疼痛の管理、免疫抑制状態での感染症管理などすべての診療科の知識を広く要求される分野です。総合診療的修練を行うには最適な分野であることは間違いありません。

一般内科全体に求められる基本的な手技に精通することができる

血液内科での手技は骨髄検査にとどまりません。CV挿入、髄注にともなう腰椎穿刺、胸水・腹水貯留に対する穿刺など、一般内科全体に求められる基本的な手技が頻繁に要求されます。当科での研修を通して、その後のキャリアで必ず必要とされるであろう多くの手技について修練を積むことが可能です。

診断から治療まで一貫してかかわることができる

血液内科は基本的に診断にあたりリンパ節摘出など外科の先生方をお願いすることはあるものの、骨髄検査などを含めて一貫して自分の科で診断し、治療することができる診療分野です。初診から診断、そして治療にいたるまで患者さんとずっとかかわることができることは大きな魅力のひとつです。

ここからは血液内科志望を考慮される際としての当科ならではの魅力を挙げます

悪性腫瘍のみならず、数多くの良性血液疾患を修練できる

血液疾患というと「白血病」や「悪性リンパ腫」などの悪性疾患を想起しがちかもしれませんが、実際、多くの方が学生時代に大学病院の実習などで悪性疾患を中心とした血液内科診療を見聞きして来られたのではないのでしょうか？しかしながら、血液疾患の中には「貧血」「ITP」などの多くの良性疾患が存在します。これらの良性疾患を大学病院や大規模センター病院で日常的に経験することは実は難しい場合も多く、後期研修が終了した段階で症例経験に大きな偏りが生じてしまう専攻医も少なくありません。その点当科では、悪性疾患は勿論のこと、民間病院であるという特徴から非常に多くの良性疾患診療を修練可能です。がん専門病院や大学病院のような同種移植は行っていないものの、自家末梢血幹細胞移植は経験することができます。

また大阪中心部の病院ゆえに患者さんの年齢層も若年からご高齢の方まで幅広く、様々な強度の治療を幅広く行っています。

若いチームで和気藹々と研修できる

当科は他院に比べて珍しいほどの若手中心のメンバー構成です。気張らずに自由に発言や質問ができ、どのメンバーも教育的な屋根瓦式指導環境です。

血液内科専門医としての成長

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫といった悪性疾患に関しては診断法から治療に至るまで、スライドをもとに基本的事項を初期/後期研修医向けに毎月講義を行っています。また、当院はUp to Dateも導入されており海外文献の契約もある程度されています。入院・外来を問わず、毎週木曜日の科内全体カンファレンスで難渋症例については討議を行っており、文献検索をしながらお互いに専門的知識を肉付けしています。基本的なことは講義したうえで、応用的なことは実践を通じて学術的に調べupdateしています。